

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	放課後デイサービスいっぽいっぽ宮下		
○保護者評価実施期間	2026年 1月 12日		～ 2026年 1月 31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	23	(回答者数) 13
○従業者評価実施期間	2026年 1月 13日		～ 2026年 1月 31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	10	(回答者数) 8
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 3月 23日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	利用者一人ひとりの発達段階や特性に応じた個別支援を行い、「できた」を積み重ねる支援を大切にしている点である。成功体験を重ねることで自己肯定感の向上につながる支援が実践できている。	子どもたちのいいところを伸ばしていく考え方を取り入れ、行動の背景を理解し、環境調整を中心とした支援を行っている。子どもの特性に合わせた関わりを意識している	職員の専門性向上（発達理解・支援技術・制度理解）に向けた継続的な研修の実施
2	安心して過ごせる環境づくりと、楽しみながら発達につながる活動の両立ができてきている点である。活動内容を固定化せず、子どもの興味や状態に応じて柔軟にプログラムを調整している。	個別支援計画の作成にあたり、アセスメントや日々の記録をもとに、課題や目標を明確にし、段階的に達成できるよう支援している。	個別支援計画の質向上（アセスメント・目標設定・評価の精度向上）
3	保護者や関係機関と連携しながら、継続的で一貫した支援を提供できている点である。日々の情報共有を通して信頼関係を築き、安心して利用できる環境が整っている。	職員間での情報共有やミーティング、ケース会議を通じて支援の統一を図り、チームで支援を行う体制づくりを意識している。	他事業所や学校との連携強化による支援の一貫性の向上

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	利用者の増加や特性の多様化により、支援の質にばらつきが生じる場面がある。	日々の業務に追われ、振り返りや共有の時間が十分に確保できていない	支援の考え方や発達理解の共通言語化と定期的な研修の実施
2	記録や振り返りの時間確保が不十分なことがある	支援の考え方や基準の統一が不十分で、個々の経験に依存する部分がある	ケース会議やミーティングの定例化による情報共有の強化
3	利用者の増加や多様化により、支援の質の均一化が課題となっている	人員配置や時間的制約により、丁寧な個別対応が難しい場面がある	記録・振り返りの仕組み化（簡略化・ICT活用）による業務効率の改善